

平成24年度採択プログラム 事後評価調書

博士課程教育リーディングプログラム プログラムの概要 [公表。ただし、項目13については非公表]

機関名	名古屋大学	整理番号	N01
1. 全体責任者 (学長)	※共同実施のプログラムの場合は、全ての構成大学の学長について記入し、取りまとめを行っている大学(連合大学院によるもの場合は基幹大学)の学長名に下線を引いてください。 (ふりがな) まつお せいいち 氏名・職名 松尾 清一 (名古屋大学総長)		
2. プログラム責任者	(ふりがな) まえしま まさよし 氏名・職名 前島 正義 (名古屋大学副総長/生命農学研究科・教授)(平成29年4月1日交替)		
3. プログラム コーディネーター	(ふりがな) たじま ひろやす 氏名・職名 田島 宏康 (名古屋大学宇宙地球環境研究所・教授)		
4. 類型	N <複合領域型(横断的テーマ)>		
5.	プログラム名称	フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム	
	英語名称	Leadership Developemnt Program for Space Exploration and Research	
	副題	産学官連携と理工横断による次世代産業創出を目指して	
6. 授与する博士 学位分野・名称	博士(理学)、博士(工学) 学位記に本プログラムの名称を付記する		
7. 主要分科	(① 物理学) (② 地球惑星科学) (③ 総合工学) ※ 複合領域型は太枠に主要な分科を記入		
	数学、プラズマ科学、材料化学、機械工学、電気電子工学、ナノマイクロ科学、天文学、社会・安全システム科学		
8. 主要細目	(①) (②) (③) ※ オンリーワン型は太枠に主要な細目を記入		
	素粒子・原子核・宇宙線・宇宙物理、天文学、超高層物理学、地球宇宙化学、気象・海洋物理・陸水学、幾何学、環境動態解析、航空宇宙工学、ナノマイクロシステム、社会システム工学・安全システム、プラズマ科学、高分子・繊維材料、生産工学・加工学、設計工学・機械機能要素・トライボロジー、流体工学、通信・ネットワーク工学、原子力学		
9. 専攻等名 (主たる専攻等がある場合は下線を引いてください。)	理学研究科 素粒子宇宙物理学専攻、工学研究科 航空宇宙工学専攻		
10. 共同教育課程を設置している場合の共同実施機関名			
11. 連合大学院として参画している場合の共同実施機関名			
12. 連携先機関名(他の大学等と連携した取組の場合の機関名、研究科専攻等名)	慶応義塾大学総合政策学部大学院法務研究科・理工学部、JAXA宇宙科学研究所、愛知医科大学医学部、Carleton大学、三菱重工業(株)航空飛昇体事業部・宇宙事業部、東京大学地球惑星科学専攻、高エネルギー加速器研究機構、東京工業大学工学院、大阪大学大学理学研究科宇宙地球科学専攻・工学研究科機械工学専攻、内閣府宇宙政策委員会、三菱電機(株)先端技術総合研究所		

14. プログラム担当者の構成		計	83	名			
外国人の人数	3	人	[3.6 %]	女性の人数	7	人	[8.4 %]
プログラム実施大学に属する者の割合		[81.9 %]					
プログラム実施大学に属する者		68	人	プログラム実施大学以外に属する者	15	人	
そのうち、他大学等を経験したことのある者		44	人	そのうち、大学等以外に属する者	7	人	

15. プログラム担当者					
氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
(プログラム責任者) 前島 正義 (H29. 4. 1交替)	マエシマ マサヨシ		副総長/生命農学研究科・教授	生化学・農学博士	プログラム総括、学内専攻間調整、学外研究所・企業との連携
(プログラムコーディネーター) 田島 宏康	タジマ ヒロヤス		宇宙地球環境研究所・教授	宇宙線物理学・理学博士	運営：プログラム総括、ChubuSat推進室教育/研究：先端基盤/宇宙ガンマ線観測
國枝 秀世 (H29. 4. 1交替)	クニエダ ヒデオ		名古屋大学素粒子宇宙起源研究機構・副機構長	X線天文学・理学博士	運営：ChubuSat推進室、コースワーク運営室教育/研究：宇宙物理学/X線観測
飯嶋 徹	イジマ トオル		現象解析研究センター・教授	素粒子実験・博士(理学)	運営：デビュティコーディネーター、先端技術室長、コースワーク運営室教育/研究：素粒子宇宙物理学/素粒子実験
佐宗 章弘	サソウ アキヒロ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・教授	宇宙推進工学・電離気体力学・工学博士	運営：デビュティコーディネーター、産学官連携室長、コースワーク運営室、教育推進委員会委員長教育/研究：宇宙開発/宇宙推進工学
居波 賢二	イナミ ケンジ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・准教授	素粒子物理学・博士(理学)	運営：先端技術室教育/研究：先端基盤/素粒子物理学
犬塚 修一郎	イヌツカ シュウイチロウ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	宇宙物理学・博士(理学)	運営：アドミッション室教育/研究：宇宙基礎/宇宙物理学
金田 英宏	カナダ ヒデヒロ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	宇宙物理学・博士(理学)	運営：ChubuSat推進室長、産学官連携室副室長、コースワーク運営室教育/研究：先端基盤/宇宙物理学
清水 裕彦	シミズ ヒロヒコ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	素粒子原子核物理学・博士(理学)	運営：事業推進室長教育/研究：先端基盤/素粒子原子核物理学
竹内 努	タケウチ ツトム		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・准教授	宇宙物理学・博士(理学)	運営：国際連携室教育/研究：宇宙基礎/宇宙物理学、統計科学
棚橋 誠治	タナハシ セイジ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	素粒子論・博士(理学)	運営：国際連携室副室長教育/研究：宇宙基礎/素粒子論
戸本 誠	トモト マコト		理学研究科・タウ・レプトン物理研究センター・准教授	高エネルギー物理学・博士(理学)	運営：学生支援室教育/研究：先端基盤/高エネルギー物理学
野尻 伸一	ノジリ シンイチ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	素粒子的宇宙論・理学博士	運営：学生支援室長、コースワーク運営室副室長、教育推進委員会副委員長教育/研究：宇宙基礎/素粒子的宇宙論
原田 正康	ハラダ マサヤス		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	クォーク・ハドロン理論・博士(理学)	運営：アドミッション室長教育/研究：宇宙基礎/クォーク・ハドロン理論
久野 純治	ヒサノ ジュンジ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・教授	素粒子物理学実験・博士(理学)	運営：事業推進室副室長、アドミッション室教育/研究：宇宙基礎/素粒子論
福井 康雄	フクイ ヤスオ		理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻・特任教授	宇宙物理学・理学博士	運営：国際連携室、コースワーク運営室教育/研究：宇宙基礎/宇宙物理学

15. プログラム担当者(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
松原 隆彦	マツバラ タカヒコ		基礎理論研究センター・准教授	宇宙物理学・ 博士(理学)	運営：コースワーク運営室、学生支援室 教育/研究：宇宙基礎/宇宙物理学
松見 豊	マツミ ユタカ		宇宙地球環境研究所・名誉教授	大気環境計 測・理学博士	運営：産学官連携室 教育/研究：宇宙利用/大気環境計測
草野 完也	クサノ カンヤ		宇宙地球環境研究所・教授	太陽地球環 境学・理学博士	運営：アドミッション室副室長 教育/研究：先端基盤/宇宙天気予報
伊藤 好孝	イトウ ヨシタカ		宇宙地球環境研究所・教授	宇宙線物 理学・博士(理 学)	運営：国際連携室長 教育/研究：宇宙基礎/宇宙線物理学
塩川 和夫	シオカワ カズオ		宇宙地球環境研究所・教授	超高層大気 物理学・博士(理 学)	運営：アドミッション室、学生支援室副室長 教育/研究：宇宙利用/超高層大気物理学
徳丸 宗利	トクマル ムネトシ		宇宙地球環境研究所・教授	惑星間空間 物理学・理学博 士	運営：先端技術室 教育/研究：宇宙開発/惑星間空間物理学
平原 聖文	ヒラハラ マサフミ		宇宙地球環境研究所・教授	宇宙空間物 理学・博士(理 学)	運営：ChubuSat推進室 教育/研究：宇宙開発/太陽地球環境学
増田 智	マスダ サトシ		宇宙地球環境研究所・准教授	太陽物理学・ 博士(理学)	運営：事業推進室副室長、国際連携室 教育/研究：宇宙開発/太陽フレア
水野 亮	ミズノ アキラ		宇宙地球環境研究所・教授	大気科学電 波天文学・理学 博士	運営：先端技術室副室長、事業推進室 教育/研究：宇宙利用/太陽地球環境学
三好 由純	ミヨシ ヨシズミ		宇宙地球環境研究所・准教授	太陽地球系 物理学・博士 (理学)	運営：国際連携室 教育/研究：宇宙開発/太陽地球系物理学
井上 剛志	イノウエ ツヨシ		工学研究科・機械システム工学専攻・教授	電子機械工 学・博士 (工学)	運営：学生支援室 教育/研究：宇宙開発/ロケットメカニクス
梅原 徳次	ウメハラ ノリツグ		工学研究科・マイクロ・ナノ機械理工学専攻・教授	機能表面創 成工学・博士 (工学)	運営：先端技術室副室長 教育/研究：先端基盤/機能表面創成工学
瓜谷 章	ウリタニ アキラ		工学研究科・総合エネルギー理工学専攻・教授	放射線計測 学、原子力 学・博士 (工学)	運営：事業推進室、先端技術室 教育/研究：先端基盤/放射線計測学
大野 哲靖	オオノ ノリヤス		工学研究科・電気工学専攻・教授	プラズマ理 工学・博士(工 学)	運営：アドミッション室副室長 教育/研究：宇宙基礎/プラズマ理工学
笠原 次郎	カサハラ ジロウ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・教授	宇宙推進工 学・博士 (工学)	運営：学生支援室副室長、コースワーク運営 室 教育/研究：宇宙開発/宇宙推進工学
小橋 眞	コバシ マコト		工学研究科・物質プロセス工学専攻・教授	材料工学・博 士(工学)	運営：アドミッション室 教育/研究：先端基盤/先端材料
小林 実	コバヤシ ミノル		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 教授	宇宙工学・工 学博士	運営：アドミッション室
社本 英二	シャモト エイジ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・教授	超精密工学・ 博士(工学)	運営：先端技術室 教育/研究：先端基盤/超精密工学
田邊 靖博	タナベ ヤスヒロ		工学研究科・材料デザイン工学専攻・教授	複合材料・高 速衝突現象・ 博士(工学)	運営：国際連携室副室長 教育/研究：先端基盤/総合宇宙工学
長野 方星	ナガノ ホウセイ		工学研究科・機械システム工学専攻・教授	宇宙熱工学・ 博士(工学)	運営：アドミッション室、ChubuSat推進室副 室長、コースワーク運営室長 教育/研究：宇宙基礎/宇宙熱工学
新美 智秀	ニイミ トモヒデ		工学研究科・マイクロ・ナノ機械理工学専攻・教授	機械工学、希 薄気体力学・ 工学博士	運営：学生支援室 教育/研究：宇宙基礎/機械工学

15. プログラム担当者(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
古谷 礼子	フルヤ レイコ		工学研究科・国際交流室・准教授	教育学・教育学博士	運営：国際連携室、コースワーク運営室 教育/研究：グローバルリーダー研修
水谷 法美	ミズタニ ノリミ		工学研究科・土木工学専攻・教授	土木工学・博士(工学)	運営：コースワーク運営室 教育/研究：宇宙利用/津波観測
Leleito Emanuel	レレイト エマ ニュエル		工学研究科・国際交流室・講師	土木工学・博士(工学)	運営：国際連携室、コースワーク運営室 教育/研究：宇宙利用/グローバルリーダー研修
石坂 丞二	イシザカ ジョウジ		環境学研究科・宇宙地球環境研究所・教授	生物海洋学・Ph. D.	運営：アドミッション室 教育/研究：宇宙利用/海洋環境
桂木 洋光	カツラギ ヒロアキ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	非線形地球惑星物理学・博士(理学)	運営：先端技術室、産学官連携室 教育/研究：宇宙基礎/非線形地球惑星物理学
柴田 隆	シバタ タカシ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	大気科学・博士(理学)	運営：アドミッション室 教育/研究：宇宙利用/大気科学
平原 靖大	ヒラハラ ヤスヒロ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	宇宙化学分子分光・博士(理学)	運営：先端技術室 教育/研究：宇宙利用/宇宙化学、分子分光学
増永 浩彦	マズナガ ヒロヒコ		環境学研究科・宇宙地球環境研究所・准教授	気象学・博士(理学)	運営：ChubuSat推進室 教育/研究：宇宙利用/雲・降雨推定
山口 靖	ヤマグチ ヤスシ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	地球惑星科学・博士(理学)	運営：国際連携室、コースワーク運営室 教育/研究：宇宙利用/地球・惑星環境
渡邊 誠一郎	ワタナベ セイイチロウ		環境学研究科・地球環境科学専攻・教授	太陽系探査科学・博士(理学)	運営：学生支援室 教育/研究：宇宙利用/地球環境変動予測
管野 浩明	カンノ ヒロアキ		多元数理科学研究科・多元数理科学専攻・教授	数理物理学・博士(理学)	運営：学生支援室 教育/研究：宇宙基礎/数理物理学
木村 芳文	キムラ ヨシフミ		多元数理科学研究科・多元数理科学専攻・教授	流体力学・博士(理学)	運営：アドミッション室 教育/研究：先端基盤/流体力学
片山 正昭	カタヤマ マサアキ		工学研究科・未来材料・システム研究所・教授	情報通信工学・工学博士	運営：ChubuSat推進室 教育/研究：宇宙利用/情報通信工学
中村 光廣	ナカムラ ミツヒロ		工学研究科・未来材料・システム研究所・教授	素粒子宇宙物理学・理学博士	運営：産学官連携室、コースワーク運営室 教育/研究：先端基盤/素粒子物理学
石川 隆司	イシカワ タカシ		工学研究科・ナショナルコンポジットセンター・特任教授	複合材工学・博士(工学)	運営：コースワーク運営室 教育/研究：先端基盤/複合材工学
原 進	ハラ ススム		工学研究科・航空宇宙工学専攻・教授	宇宙システム工学・博士(工学)	運営：コースワーク運営室 教育/研究：先端基盤/月惑星探査要素技術、グローバルリーダーシップトレーニング
稲守 孝哉	イナモリ タカヤ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・講師	宇宙システム工学・博士(工学)	運営：ChubuSat推進室 教育/研究：宇宙開発/航空宇宙工学、超小型人口衛星
齊藤 慎司	サイトウ シンジ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任准教授	宇宙プラズマ物理・博士(工学)	運営：コースワーク運営室、学生支援室
広田 克也	ヒロタ カツヤ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任准教授	素粒子物理・博士(物理学)	運営：事業推進室、コースワーク運営室
青木 宏	アオキ ヒロシ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任教授	宇宙輸送・推進・工学博士	運営：産学官連携室、教育推進委員会総括
山口 哲郎	ヤマグチ テツオ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任教授	人工衛星のシステムエンジニアリング・理学士	運営：産学官連携室

15. プログラム担当者(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門 学位	役割分担 (平成30年度における役割)
毛受 弘彰	メンジョウ ヒロアキ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任助教	宇宙線物理学・ 理学(博士)	運営:国際連携室、コースワーク運営室
鈴木 一仁	スズキ カズヒト		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 講師	高エネルギー 物理学・博士 (理学)	運営:先端技術室、コースワーク運営室
石原 大助	イシハラ ダイスケ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 講師	宇宙物理学・ 博士(理学)	運営: ChubuSat推進室
田中 秀孝	タナカ ヒデタカ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 教授	システムエン 지니어リン グ、流体力学 ・工学博士	運営: ChubuSat推進室、コースワーク運営室
田村 啓輔	タムラ ケイスケ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 講師	宇宙物理学・ 博士(理学)	運営: ChubuSat推進室
西本 一郎	ニシモト イチロウ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 准教授	宇宙工学・学士 (工学)	運営: コースワーク運営室
Henderson Janet Nora	ヘンダーソン ジャネット ノラ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・研究 員	数学・博士 (数学)	運営: コースワーク運営室
山岡 和貴	ヤマオカ カズタカ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 准教授	X・ガンマ線天 体物理学・博 士(理学)	運営: プログラムコーディネーター補佐
森嶋 隆裕 (H28. 8. 1追加)	モリシマ タカヒロ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 講師	天文学・博士 (理学)	運営: 事業推進室
宮田 喜久子 (H28. 12. 1追加)	ミヤタ キクコ		工学研究科・航空宇宙工学専攻・助教	航空宇宙工 学・博士(工 学)	運営: ChubuSat推進室 教育/研究: 航空宇宙工学/小型宇宙機
西野 真木 (H29. 8. 1追加)	ニシノ マサキ		フロンティア宇宙開拓リーダー養成プログラム・特任 講師	宇宙空間プラ ズマ科学・博 士(理学)	運営: コースワーク運営室、ChubuSat推進室
(その他の大学)					
青木 節子	アオキ セツコ		慶応義塾大学・大学院法務研究科・教授	宇宙法・Ph. D.	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 宇宙利用/国際法、宇宙法、宇宙 政策
稲谷 芳文	イナタニ ヨシフミ		JAXA 宇宙科学研究所・教授	宇宙飛翔体の 空気力学、宇 宙輸送システ ム・工学博士	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 宇宙開発/宇宙飛翔体空気力学
岩田 隆敬	イワタ タカノリ		JAXAチーフエンジニア室・室長	宇宙機の力 学・航法・誘 導・制御、人 工衛星設計、 制御工学・ Ph. D.	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 宇宙利用/宇宙機力学
松永 三郎	マツナガ サブロウ		東京工業大学・工学院・機械系・教授	宇宙システム 工学・博士 (工学)	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 宇宙開発
岩瀬 敏	イワセ サトシ		愛知医科大学・医学部・教授	宇宙医学・博 士(医学)	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 宇宙利用/宇宙医学
Tarik Kaya	タリック カヤ		Carleton大学・教授	人工衛星工 学・Ph. D.	運営: コースワーク運営室 教育/研究: 衛星開発講義・講習
黒田 能克	クロダ ヨシカツ		三菱重工機軸航空飛昇体事業部・飛昇体電子システム 技術部長、宇宙地球環境研究所・客員教授	航空宇宙工 学、電子デバ イス工学・工 学修士	運営: 産学官連携室副室長 教育/研究: 宇宙開発/航空宇宙工学

15. プログラム担当者(続き)

氏名	フリガナ	年齢	所属(研究科・専攻等)・職名	現在の専門学位	役割分担 (平成30年度における役割)
関 華奈子	セキ カナコ		東京大学・大学院理学系研究科・地球惑星科学専攻・教授	宇宙空間プラズマ物理学・博士(理学)	運営:コースワーク運営室 教育/研究:宇宙開発/宇宙空間プラズマ物理学
成澤 泰貴	ナルサワ ヤスタカ		三菱重工宇宙事業部・首席技師、宇宙地球環境研究所・客員准教授	航空宇宙工学・工学博士	運営:ChubuSat推進室 教育/研究:宇宙開発/超小型人工衛星
幅 淳二	ハバ ジュンジ		高エネルギー加速器研究機構・測定器開発室(室長)・教授	素粒子論・理学博士	運営:先端技術室 教育/研究:先端基盤/素粒子物理学
松尾 亜紀子	マツオ アキコ		慶応義塾大学・理工学部・教授	数値流体力学・博士(工学)	運営:コースワーク運営室 教育/研究:宇宙開発/反応性流体力学
松本 浩典	マツモリ ヒロノリ		大阪大学・大学院理学研究科宇宙地球科学専攻・准教授	宇宙物理学・博士(理学)	運営:ChubuSat推進室、コースワーク運営室、学生支援室 教育/研究:先端基盤/宇宙物理学
山崎 直子	ヤマザキ ナオコ		内閣府宇宙政策委員会・宇宙政策委員	宇宙工学・修士(工学)	運営:コースワーク運営室 教育/研究:宇宙利用/宇宙滞在経験者
山田 克彦	ヤマダ カツヒコ		大阪大学・大学院工学研究科・機械工学専攻・教授	軌道力学・姿勢制御・工学博士	運営:ChubuSat推進室 教育/研究:宇宙開発/軌道力学
吉河 章二	ヨシカワ ショウジ		三菱電機㈱・先端技術総合研究所・メカトロニクス技術部・主管技師長	衛星制御工学・博士(工学)	運営:産学官連携室 教育/研究:宇宙開発/航空宇宙工学

16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数

本プログラムの過去のリーディングプログラム応募学生数等について記入してください。

(各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度 * (今後の募集予定: 有 無)	
プログラム募集定員数	50	27	12	20	20	20	20	
① 応募 学生 数	74	36	19	22	15	20	14	
	うち留学生数	14	13	6	7	6	11	7
	うち自大学出身者数	51 (6)	14 (1)	10 (2)	8 (1)	3 (0)	5 (1)	3 (1)
	うち他大学出身者数	23 (8)	22 (12)	9 (4)	14 (6)	12 (6)	15 (10)	11 (6)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
うち女性数	9 (0)	3 (2)	2 (0)	3 (2)	2 (1)	4 (2)	4 (3)	
② 合格 者数	43	24	15	15	12	18	9	
	うち留学生数	3	8	5	4	6	10	5
	うち自大学出身者数	22 (0)	11 (1)	8 (2)	8 (1)	2 (1)	5 (1)	3 (2)
	うち他大学出身者数	21 (3)	13 (7)	7 (3)	7 (3)	10 (5)	13 (9)	6 (3)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
うち女性数	6 (0)	3 (2)	2 (0)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	
③ ②の うち 履修 生数	43	17	14	15	12	17	8	
	うち留学生数	3	7	4	4	6	10	5
	うち自大学出身者数	22 (0)	7 (1)	8 (2)	8 (1)	2 (1)	4 (1)	2 (1)
	うち他大学出身者数	21 (3)	10 (6)	6 (2)	7 (3)	10 (5)	13 (9)	6 (4)
	うち社会人学生数	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)	0 (0)
うち女性数	6 (0)	2 (2)	2 (0)	2 (1)	2 (1)	4 (2)	3 (2)	
プログラム合格倍率 (応募学生数/合格者数) (小数点第三位を四捨五入)	1.72倍	1.50倍	1.27倍	1.47倍	1.25倍	1.11倍	1.56倍	0.00倍
充足率 (合格者数/募集定員)	86%	89%	125%	75%	60%	90%	45%	0%

※留学生については、「うち留学生数」にカウントするとともに、うち自大学出身者数、うち他大学出身者数、うち社会人学生数、うち女性数の()に内数を記入してください。

※平成30年度*(今後の募集予定:有・無)については、平成30年度内に履修を開始する学生を募集予定の場合(秋入学等)は「有」に、募集予定がない場合は「無」に印を付けてください。

また、「有」の場合は、当該予定分については表中には含めず、備考欄へ募集時期及び募集予定人数を記入してください。

※編入学生がいる場合は、年度ごとの内訳を備考欄に記入してください。

17. プログラムの履修生数・修了(予定)者数
 ②医・歯・薬・獣医学の4年制博士課程

該当なし

[公表(備考欄を除く)]
 (各年度3月31日現在(ただし平成30年度は提出日現在))

プログラムの履修生数等	履修生数 (選抜年度内辞退は除く。)					平成24年度 (H25.3.31)					H25.3.31 - H26.3.30		平成25年度 (H26.3.31)					H26.3.31 - H27.3.30		平成26年度 (H27.3.31)					H27.3.31 - H28.3.30		平成27年度 (H28.3.31)					H28.3.31 - H29.3.30		平成28年度 (H29.3.31)					H29.3.31 - H30.3.30		平成29年度 (H30.3.31)					H30.3.31 - (提出日)		平成30年度 (提出日(H30.6))					H31.3.31 (見込)		(見込) 修了計	(見込) 辞退計
	D1	D2	D3	D4	計	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	D1	D2	D3	D4	計	修了	辞退	(見込) 修了計	(見込) 辞退計							
平成24年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																	0	0							
	うち自大学出身者数				0					0					0																																			0	0					
	うち他大学出身者数				0					0					0																																			0	0					
	うち社会人学生数				0					0					0																																			0	0					
	うち女性数				0					0					0																																		0	0						
平成25年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																			0	0					
	うち自大学出身者数				0					0					0																																				0	0				
	うち他大学出身者数				0					0					0																																				0	0				
	うち社会人学生数				0					0					0																																				0	0				
	うち女性数				0					0					0																																			0	0					
平成26年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																				0	0				
	うち自大学出身者数				0					0					0																																					0	0			
	うち他大学出身者数				0					0					0																																					0	0			
	うち社会人学生数				0					0					0																																					0	0			
	うち女性数				0					0					0																																				0	0				
平成27年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																					0	0			
	うち自大学出身者数				0					0					0																																					0	0			
	うち他大学出身者数				0					0					0																																					0	0			
	うち社会人学生数				0					0					0																																					0	0			
	うち女性数				0					0					0																																				0	0				
平成28年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																						0	0		
	うち自大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち他大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち社会人学生数				0					0					0																																					0	0			
	うち女性数				0					0					0																																					0	0			
平成29年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																						0	0		
	うち自大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち他大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち社会人学生数				0					0					0																																					0	0			
	うち女性数				0					0					0																																					0	0			
平成30年度 選抜	うち留学生数				0					0					0																																						0	0		
	うち自大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち他大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち社会人学生数				0					0					0																																						0	0		
	うち女性数				0					0					0																																						0	0		
計	うち留学生数	0	0	0	0	0	0	0	0	0					0																																				0	0				
	うち自大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち他大学出身者数				0					0					0																																						0	0		
	うち社会人学生数				0					0					0																																						0	0		
	うち女性数				0					0					0																																						0	0		
修了者数										0					0																																				0	0				
うち就職者数										0					0																																				0	0				
辞退者数										0					0																																				0	0				
うち就職に伴う辞退者数										0					0																																				0	0				
プログラム履修生以外で、プログラムのカリキュラムの一部を受講している学生数																																																			0	0				

※16. プログラムの応募学生数、合格者数及び履修生数と整合性を取ってください。
 ※標準修業年限を超えて在学する者は、「D4」欄に計上してください。
 ※満期退学者は修了者には含めず、退学した時期の「辞退」欄に含めてください。満期退学者のうち退学後に学位取得した者(プログラムが修了者と認定する場合に限る。)については学位取得した時期の「修了」欄に記入し、該当者の経緯について備考欄に記載するとともに、右端の「修了計」欄及び「辞退計」欄は二重計上とならないよう「辞退計」から該当数を差し引いてください。
 ※「就職者数」にはプログラムを修了後に就職した者(起業した者も含む。)のみをカウントしてください。また、満期退学後就職した後に学位を取得した者はカウントしてください。なお、社会人学生の現職継続は含めないでください。
 ※辞退者(Q.Eによるものも含む)や満期退学者がいる場合は、年度毎の内訳およびその理由を備考欄に記入してください。

リーダーを養成するプログラムの概要、特色、優位性

(広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダー養成の観点から、本プログラムの概要、特色、優位性を記入してください。)

【概要】

本学位プログラムでは、人類最後のフロンティアである宇宙を切り開くため、「宇宙」を基軸として最先端の知見や技術を俯瞰的視野で統合し、産業にも活かす国際的リーダーを産業界に広く輩出し、そのネットワークを通して市民生活の向上に寄与する宇宙利用の拡大につなげることを目指す。

宇宙は人類最後のフロンティアといわれているが、現代社会の基盤はすでに「環境」(地球観測衛星網、リモートセンシング技術)、「物質」(極限環境に適用する先端技術・材料)、「情報」(通信・放送衛星、GPS衛星)、「安心安全」(気象衛星、陸域観測技術衛星)等の多様な観点から宇宙インフラに深く依存しており、その利用を拡大する時代に移りつつある。こうした宇宙インフラおよび地球上の人類の営みを支配する太陽地球環境をはじめとする宇宙を理解し、人類の生活基盤を保護し安全安心を保つための技術を開発し有効に利用することは、人類の重要な課題である。しかしながら、日本をはじめとする先進国の宇宙開発予算は頭打ち傾向にあり、中国、韓国、インドなどが激しく追いつけている状況にある。このような状況において、欧米諸国では PhD 取得者を大量に動員して民間の宇宙利用を拡大することで宇宙産業の振興を図っている。このような世界的な競争の中で、日本は宇宙科学や宇宙技術・先端材料開発など個々の技術では世界に引けをとらないが、新しい着眼点に立ってプロジェクトを提案し実行力を持って推進する国際的リーダーが不足しており、得意分野の最先端の知見や技術が民間の宇宙利用拡大に必ずしも有効に活かされていないのが現状である。

本プログラムでは、宇宙真理を探究する「宇宙基礎」、太陽地球環境を理解し、宇宙活動に必要な技術を開発する「宇宙開発」、宇宙インフラを利用する「宇宙利用」、宇宙開発や宇宙利用に有用な先端技術・材料を開発する「先端基盤」などの専攻を横断する4つのコースを新設し、かつそれらのコースをさらに横断する俯瞰的視野、問題解決能力やプロジェクトを率いる力を持つ国際的リーダーを育成することで、宇宙フロンティア開拓における我が国の国際競争力を強化することを目指す。

本プログラムは宇宙開発を目的としているが、宇宙産業に閉じているわけではなく、今後、宇宙利用の拡大に寄与する産業や、宇宙の研究・開拓に必要な先端技術・材料の開発などの周辺分野を含む次世代の産業を牽引するリーダーを育成することを目指している。

【特色】

本学位プログラムでは、宇宙開発リーダーを養成するために必要となる基礎と体験・実践のバランスに配慮したカリキュラムを構築している。

宇宙開発リーダーとして必要となる視野や専門性を高めるため、宇宙理工学基礎、宇宙理工学ビデオコースワーク、宇宙研究開発概論、宇宙理工学専門講義・講習群を整備している。さらに、宇宙開発にかかわらず一般的なリーダーとして必要な視野、国際性を養成するため、リーダー養成セミナー、グローバルリーダー研修を実施している。リーダー養成セミナーでは、学生が主体となって企画するセミナーや意見交換会を奨励し、リーダーシップを実践する機会を提供している。

本プログラムでは、学生が自分自身の実践・経験を通して成長することを重視しており、その中核となる ChubuSat 実践プログラムでは、名古屋大学が主導する産学協同人工衛星プロジェクトである ChubuSat 衛星を活用した宇宙開発・宇宙利用を実践する。そこでは、実験をあらかじめ決められた手順通りにこなすのではなく、異なる分野に所属する6~10名のチームで学生が主体となって切磋琢磨し、失敗を乗り越えながらプロジェクトを計画・推進することにより、異分野間の学生の交流を深めるとともに「企画立案能力」「組織マネジメント能力」「問題解決能力」など、広く産業の発展をリードするのに必要な能力を養成する。また、関連する海外の研究機関や企業(海外・国内を問わない)で3~6ヶ月程度の研修をするインターンシップの実施により、「国際コミュニケーション能力」や「実践能力」を養成し、「キャリアパス支援」につなげる。特に、企業インターンシップを強く奨励しており、履修生のほとんどが企業インターンシップを実施する予定である。

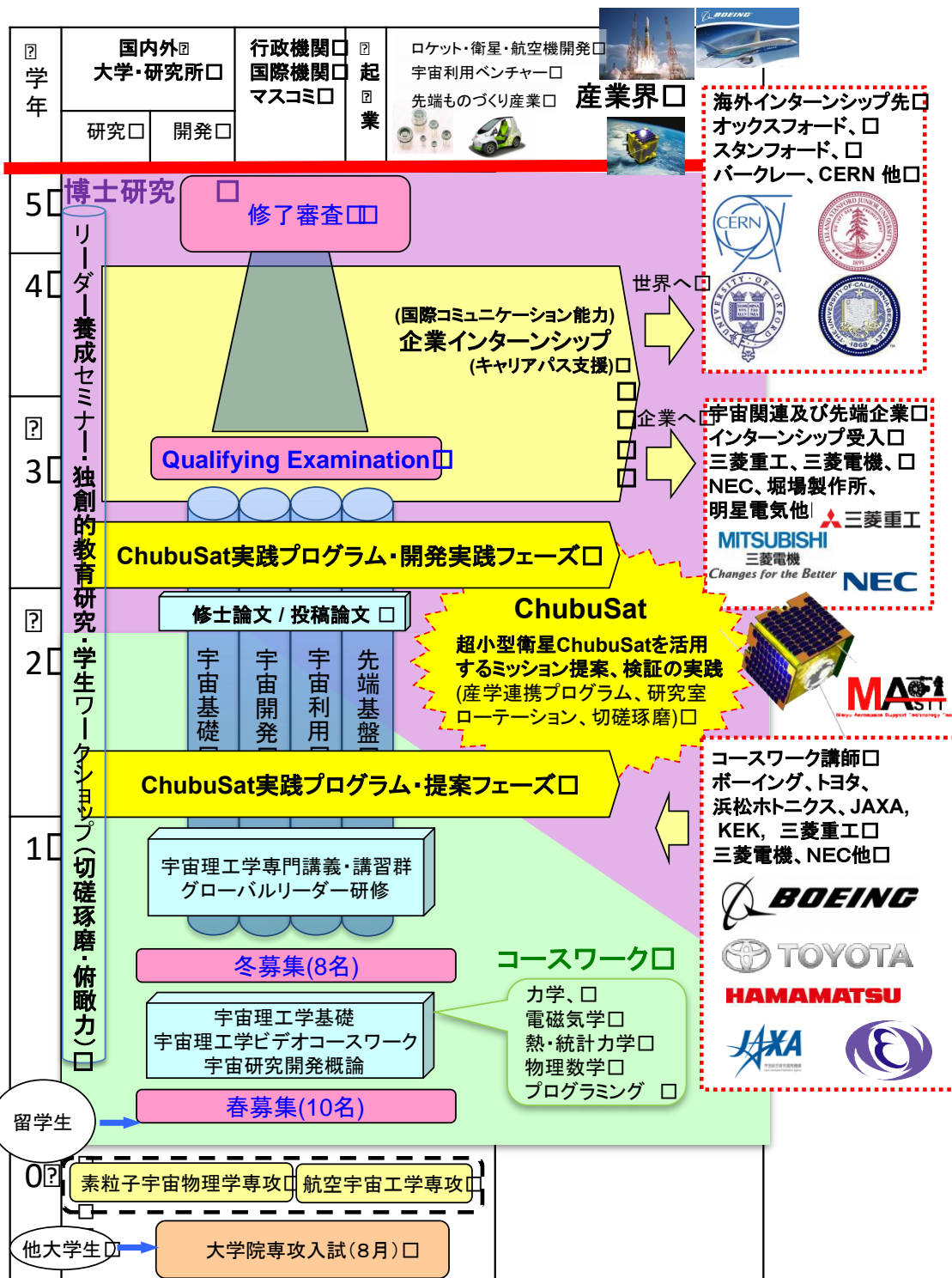
本プログラムでは、コースワーク以外の学生活動におけるリーダーシップ実践を重視しており、そうした活動も評価する徹底した質保証システムを構築している。そのため、個々の学生活動に教員が常に参加し、学生のリーダーとしての能力やそれぞれの活動における貢献度など、コースワーク等の成績だけでは測れない学生の到達度を評価している。

【優位性】

名古屋大学は理学の宇宙環境・基礎物理研究、工学の航空宇宙工学について輝かしい実績を有する。また、中部地区は自動車を始め航空宇宙産業や先進センサー技術などわが国の産業の根幹を担う地域であり、近年「アジア No.1 航空宇宙産業クラスター形成特区」に指定されている。宇宙産業の中核になうこの地域の産業界と連携し、産学協同の超小型衛星計画 ChubuSat など具体的な産学官連携プロジェクトを持つ本プログラムは、理工を横断する広い知識と経験、プロジェクトを率いる力を持った「宇宙」産業時代の研究開発リーダーを世界へ輩出する。

プログラムの概念図

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成する観点から、コースワークや研究室ローテーションなどから研究指導、学位授与に至るプロセスや、産学官等の連携による実践性、国際性ある研究訓練やキャリアパス支援、国内外の優秀な学生を獲得し切磋琢磨させる仕組み、質保証システムなどについて、プログラムの全体像と特徴が分かるようにイメージ図を書いてください。なお、共同実施機関及び連携先機関があるものについては、それらも含めて記入してください。)



プログラムの成果

(優秀な学生を俯瞰力と独創力を備え広く産学官にわたりグローバルに活躍するリーダーとして養成するという観点に照らし、学生や修了者の活躍状況を含め、アピールできる成果について記入してください。)

【基礎と実践のバランスを重視したカリキュラム】

本プログラムでは、最先端の知見や技術を俯瞰的視野で統合し宇宙利用の拡大につなげることができる国際的リーダーを養成することを目標とし、そのために必要となる学問的基礎、素養、国際性、広い視野を養成するコースワークと、学んだことを実践・体験することのバランスを重視したカリキュラムを編成した。特に、中核となる ChubuSat 実践プログラムでは、学生が9ヶ月間に渡ってプロジェクトを主体的に運営し、英語での議論・検討による超小型衛星ミッションへの提案と実験による検証を行う過程で、問題に遭遇しながら自ら解決していくことで、リーダーの役割を学び、問題解決能力やプロジェクトマネジメント能力を養成できた。ChubuSat 実践プログラムで履修生が提案したミッションが ChubuSat-2 として実際に宇宙に打ち上げられ、さらに履修生が提案したキューブサットを開発する**科学研究費・基盤(A)**を獲得するなどの成果を挙げている。また、ChubuSat 実践プログラムで実施した実験結果を、履修生の専門分野とは異なる宇宙科学連合講演会(朱鷺メッセ, 2017年10月)にて論文を発表するなど、分野を超える研究能力養成にも寄与した。

【多様性の実現】

本プログラムでは、参画専攻である理学研究科・素粒子宇宙物理学専攻と工学研究科・航空宇宙工学専攻以外からも工学研究科9専攻、環境学研究科1専攻、情報学研究科1専攻から履修生を受け入れ、多様な分野の学生の交流を促進した。さらに、全履修生126名中39名が留学生(31%)、21名(17%)が女子学生であり、関係専攻の全学生10,492名中、1,276(12%)名が留学生、1,158名(11%)が女子学生であることと比較すると、高い多様性を実現した。本プログラムでは、ChubuSat 実践プログラムや学生が主催する企画のグループワークなどで履修生の多様性を活かし、異分野(工学、理学、環境学、情報学)および国籍の異なる履修生が深く議論し、同一の目的に向かって協力しており、分野や背景を理解し、違いを尊重できる多様な人的ネットワークを構築できる環境を整備した結果、活動終了後も交流を続ける履修生のグループも存在する。

【社会に貢献する博士人材】

本プログラムでは、プログラムの成果を社会に還元するため、社会に貢献できる博士人材を養成することを目標とし、企業インターンシップを多角的に奨励、支援した結果、対象学生のほぼ8割程度が**企業インターンシップを実施した**。インターンシップを受け入れた企業からは、**博士学生の能力を見直す意見**が寄せられており、従来博士学生のインターンシップを実施していなかった企業において、**本プログラムのための受け入れ枠の設定**に結びついた。

【履修生や修了生の活躍】

本プログラムで、多様な履修生が切磋琢磨し、リーダーシップを実践しながら視野を広げた研究を推進した結果、**学会等で64件の受賞**に結実した。これは、全履修生の126名に対して、**約半数**に相当する。中でも、博士研究員も含めた**若手対象の学会奨励賞**を2名の履修生(工学1名、理学1名)が受賞している。また、**国際会議での受賞も12件あり**、国際的にも活躍している。

また、本プログラムにおける高い企業インターンシップ実施率の結果、平成27年度以降の修了生28名中13名(**46%**)が非学術機関に就職しており、**目標(27%)以上の成果を達成している**。平成28年度以降の場合、21名中11名(**52%**)が非学術機関に就職しており、さらに増加している。企業に就職した10名の修了生うち5名がインターンシップ先で採用されており、本プログラムの履修生の能力が高く評価されていることを裏付けている。

プログラムの成果

(大学院改革につながる教育研究組織の再編等の学内外への波及効果や課題の発見について記入してください。)

【全学的取り組み】

本学のリーディング大学院推進機構では、6つのリーディングプログラムのプログラムコーディネーターが中心となって協力体制を整え、学位プログラムの定着・発展にむけた体制・カリキュラムの詳細を検討した。その過程で、各リーディングプログラムの特徴を活かし統合したリーディングプログラム統合カリキュラムを作成し、全学の学生に向けて開講した。そのほかにも各リーディングプログラムから選抜された履修生が企画・運営する名古屋大学リーディングプログラム合同シンポジウムを実施した。こうした活動を通して、6つのリーディングプログラムに共通となるリーダーシップ養成に関わるカリキュラムと各プログラム特有のカリキュラムを切り分け、共通カリキュラムを統合し、平成29年度に設置した「博士課程教育推進機構」で継続できる体制を整えた。博士課程教育推進機構では、大学院共通科目として、データサイエンス、アカデミックライティング、リサーチスキルズ、公正研究、知的財産、アントレプレナー、国際情勢等の19科目(日英併設)、および体験型講義「チーム・ビルディング」を提供する。その他にも、博士人材が多面的な環境で力を発揮できる能力を養成するトランスファーラブルスキル教育、英語力増強の機会提供、ベンチャー起業支援、広い視野でのキャリアパス支援(企業と博士のマッチング等)などを実施する。博士課程教育推進機構で提供するカリキュラムは、全学に開放することでリーディングプログラムの成果を大学全体に展開する。さらに、博士課程教育推進機構では、各リーディングプログラムで学生の成績管理を目的として整備したe-Portfolioを活用し、履修生の修了後の情報を一元管理し、修了者の社会での活躍状況を長期的に把握する。

【プログラム独自の取り組み】

本プログラムでは、理工連携で宇宙利用、開発を推進する人材の養成を推進してきた結果、教員間の連携も進み、履修生の提案を採用した超小型衛星の打ち上げ、理工連携でキューブサットを開発する共同研究で科学研究費・基盤(A)を獲得するなどの波及効果を挙げている。また、現状では理学研究科、工学研究科、宇宙地球環境研究所などのそれぞれの組織において、開発に必要となる試験装置、真空槽などの設備、および測定機器、分析機器を所有しているが、本プログラムの活動を通して、これらの開発資源を集約し、協力して開発を進めることで、さらに高度かつ効率的な宇宙開発研究を促進できるという認識に至った。そこで、理学研究科、工学研究科、宇宙地球環境研究所を横断する「宇宙開発研究センター」を設立し、学内資源の集約、理工連携による宇宙開発研究拠点の形成、宇宙利用人材の育成、産学連携を推進する構想を進めている。宇宙開発研究センターは、まだ設立にむけた準備をしているところであるが、その人材育成プログラム編成準備の試行として、米国・パデュー大学の「Study abroad」プログラムを2018年度の5月に実施した。(本プログラムの既存のコースを本プログラムの履修生とともに履修した。)パデュー大学は、今後も隔年で本プログラムのカリキュラムに学生を参加させたい意向を示しており、2020年は宇宙開発研究センターで組織的に実施する予定である。